

## 9. 白石踊・踊方・手解き者名簿

踊名	氏名			備考
二つ拍子	原田良子			扇踊に女踊を組み合わせる
男踊	天野九一			中年層以上が踊る
男踊	西原省三			若者らしく形は同じ
女踊	西原ミツ			中年以上の婦人が踊る
奴踊	天野麻布美			若衆が踊る
笠踊	天野麻布美			若衆が踊る
大師踊	山川ヨシ			
真影踊	匹野宗市			形は男踊 狂言のチャリ役をする
阿亀踊	西原ミツ			女踊の流れ
梵天踊	山川藤松			男踊の流れ 男の子供が踊る
鉄砲踊	匹野宗市			
月見踊 (娘踊)	原田良子			若い婦人が踊る 女踊の流れ
プラプラ踊	山川藤松			各踊の間に踊る

(白石踊指導員)

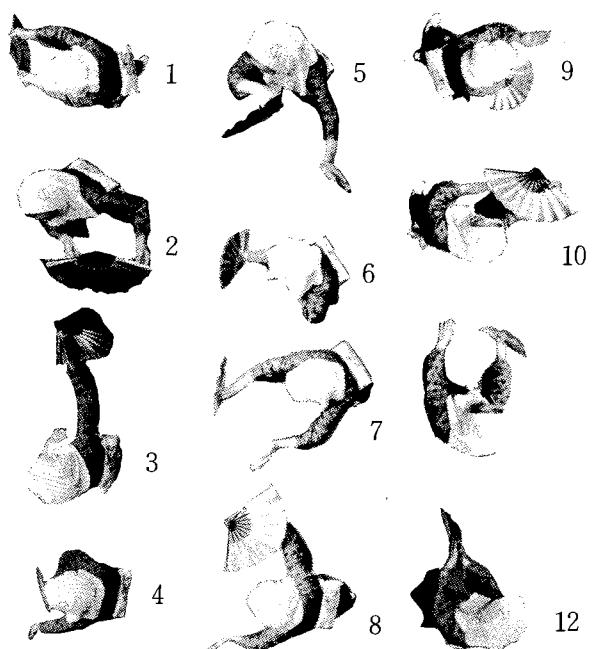
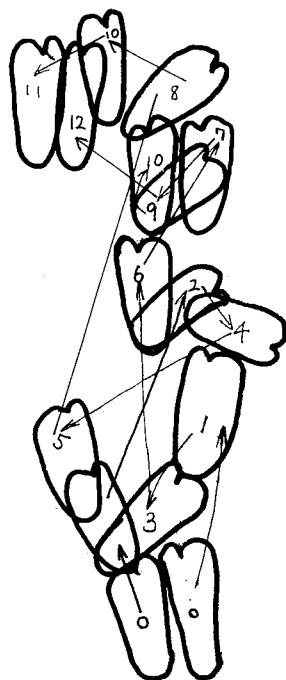
音頭	中塚 鉄夫			
太鼓	原田 碇			
男踊	山川 藤松			
女踊 扇踊	山川 雅子			
笠踊 奴踊	天野 麻布美			

## 10. 踊り方

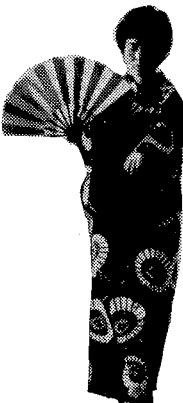
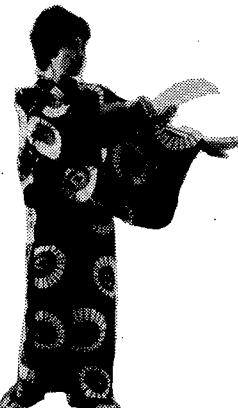
- 各踊の写真の順序  
(踊の順序) は①②  
③④⑤⑥の順に見てください。
- 次の拍子への途中の小さい  
写真がない場合は、写真の  
都合で省略したものです。

拍子	写 真	次の拍子 への途中	説 明
1	②	①	
2	⑤	④ ⑥	

踊名(二つ拍子)踊手(原田 良子)  
踊足どり (指導員山川雅子) (中塚 キフ)



拍子	写 真	次の拍子 への途中	説 明
1			右足を1歩前へ。両手は進行方向に、そのとき扇は両手でもち水平にする。
2			左足を前に。扇は右手に持ち両手を体左側へ自然に流す。

3		 	<p>右足をわずかに右後に引き、両手とも右側に自然に流す。（※2の反対）</p>
4		 	<p>左足を右足前にクロスさせるように 3の右側から両手をつれて、大きく円を描きながら 左斜前方へ突き出す。そのとき左手は掌が上向き、右 手扇は垂直に立ててとめる。</p>
5		 	<p>左足をかるく引き、両手をつれて右斜前へ突き出す。 (※4の反対)</p>
6		 	<p>右足を1歩前に出しながら、左手をかえして掌下に。 右手扇は下に向く。</p>

7		 	<p>*女踊の1に移る。</p> <p>右足の爪先を軸に踵を左方にすらすように踏み出し前進体勢になる。</p> <p>右手は内より外へ廻しながら斜上に。 左手は肘を曲げ掌上に。</p>
8		 	<p>左足を右足前方に大きく踏み出し右手を前斜上に引き上げ、扇は面を前面に立てる。</p> <p>左手は自然に肘を曲げて上方に、掌は上。</p>
9			<p>右手の扇を手首で外廻しに1回転させ、左手は掌をかえしながら右へ、さらに掌をかえながら左へ。そのとき、右足を心もち引き、体全体を左へねじるようにしてヒネリを加える。</p>
10		 	<p>左足先をわずかにずらして進行方向に向け、右手は大きく下へおろして上に、左手は下から上へせめて両手を体前水平位置へ。掌は下。</p>

11



左足を1歩引き、両手をわずかに引いて外側から前に出す。両手とも甲が上に、扇は進行方向に向けて立てる。

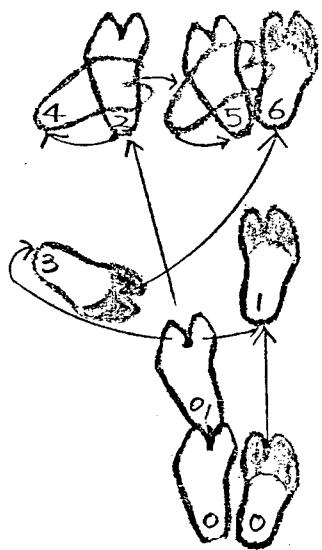
12

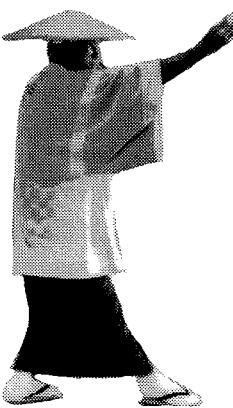


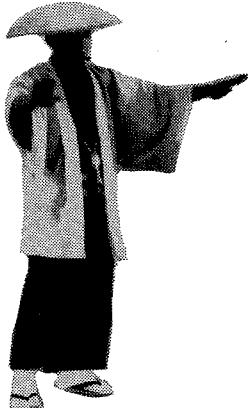
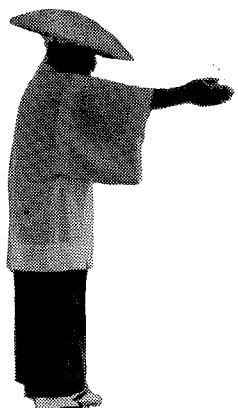
右足を引きつけて1足となる。扇はかえして左前方で両手を合わせる。

# 踊名(男 踊り) 踊手(西原 省三)

## 踊足どり

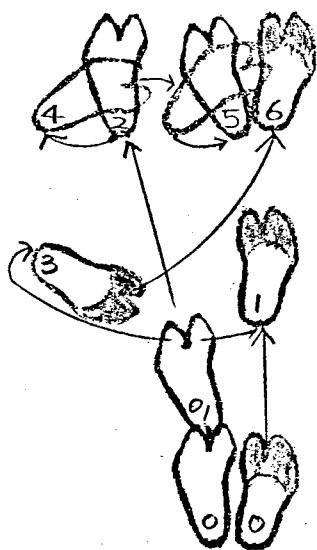


拍子	写真	次の拍子 への途中	説明
1			<p>膝を軽く曲げ、体重をかけながら、左足を1歩左斜前に出す。それと同時に素早く右足を左足にクローズし、両手くびおよび両腕の肘を軽く曲げ、掌を向うにして前斜上拳する。つづいて右足膝を軽く曲げながら、1歩大きく右斜前（進行方向へ向いて）へスライドし、左手はそのまま、右手を右肩からすぐうようにして右斜前拳する。以上の動作を1呼間で行う。</p>
2		 	<p>右方向へ体を向け（円外）、左足を右足へ揃え、両手は前上から左右へ下ろす。</p>

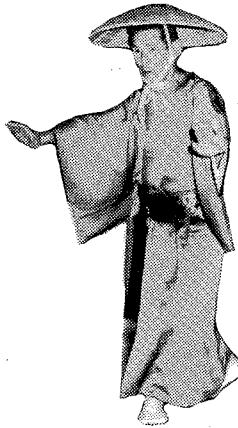
3			<p>体は外側へ向いたまま、右足1歩右へ出し、両手右方へまず流し、体重を右足にかけ腰を右へずらす。</p>
4		 	<p>つぎに体重を左足にかけながら腰を左方へずらし、同時に体は前屈しながら両手左方へ移動（足は左右とも体重のかかる方の膝をまげる）。つづいて同様の動きを右方へ行いながら体を漸次おこす。（上体を前屈し、大きく踏んばつた開脚に、交互に体重をかけながら体をねじって、いの字を描くつもりで行うとよい）</p>
5		 	<p>左足1歩進行方向へ踏み出し、右足を揃える。その時、両手は掌下に体斜前に開いて伸ばす。</p>
6			<p>進行方向へ向いたまま、腕の肘を伸ばして、体前に左右から両手を合わせる。</p>

# 踊名(男 踊り) 踊手(天野 九一)

踊足どり



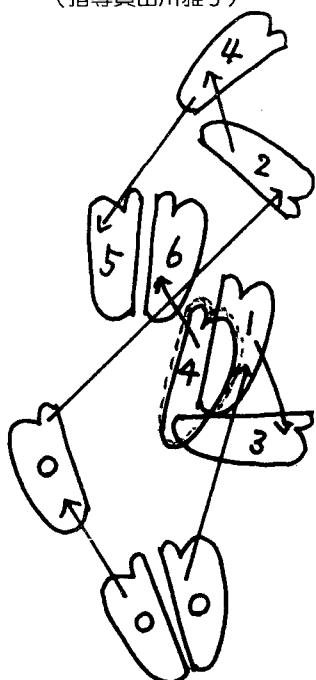
拍子	写 真	次の拍子 への途中	説 明
1			膝を軽く曲げ、体重をかけながら、左足を1歩左斜前に出す。それと同時に素早く右足を左足にクローズし、両手ぐびおよび両腕の肘を軽く曲げ、掌を向うにして前斜上拳する。つづいて右足膝を軽く曲げながら、1歩大きく右斜前（進行方向へ向いて）ヘスライドし、左手はそのまま、右手を右肩からすくうようにして右斜前拳する。以上の動作を1呼間で行う。
2			右方向へ体を向け（円外）、左足を右足へ揃え、両手は前上から左右へ下ろす。

3		<p>体は外側へ向いたままで、右足1歩右へ出し、両手右方へまず流し、体重を右足にかけ腰を右へずらす。</p>
4		<p>つぎに体重を左足にかけながら腰を左方へずらし、同時に体は前屈しながら両手左方へ移動（足は左右とも体重のかかる方の膝をまげる）。つづいて同様の動きを右方へ行いながら体を漸次あこす。（上体を前屈し、大きく踏んばつた開脚に、交互に体重をかけながら体をねじって、いの字を描くつもりで行うとよい）</p>
5		<p>左足1歩進行方向へ踏み出し、右足を揃える。その時、両手は掌下に体斜前に開いて伸ばす。</p>
6		<p>進行方向へ向いたまま、腕の肘を伸ばして、体前に左右から両手を合わせる。</p>

## 踊名(女 踊)踊手(西原 ミツ)

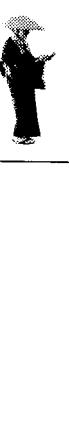
### 踊足どり

(指導員山川雅子)



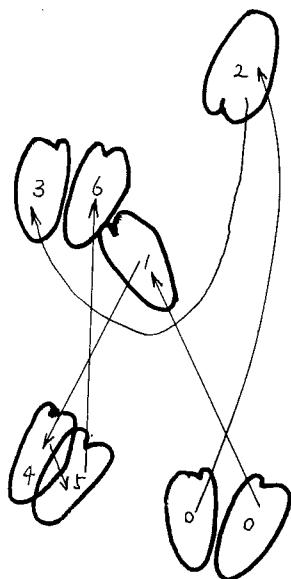
女踊りは娘踊りと同じく、手くびを極端に折り曲げ、1動作ごとに膝関節の屈伸を行うので全体的に弾性を表わし、動きの連続性と女性的な優しさを感じさせる。

拍子	写真	次の拍子への途中	説明
1			左足を小さく進行方向に向かって出し、同時に右足を左足にクローズし、そのまま右足を1歩前に出す。左手および右手を内より外へ回して頭上に上げ下ろす。
2			左足を右足に揃え、右手のみ(1)と同様に内より外へまわして上から下ろす。

3			<p>右足1歩後にひき、体をやや円外（進行方向に向かって右側）に向け、左手を前と同様に内より外へまわし、上から下ろす。</p>
4			<p>左足を右足に半歩ずれる程度に足先進行方向へ向け1歩ひく（体は進行方向へ向く）右手を前と同様内より外へまわし、上から下ろす。</p>
5			<p>左足1歩左へ（進行方向へ向いて円内へ）出し、両手掌下にして前に伸ばす。</p>
6			<p>右足を左足に揃え、肘を曲げ腕を体にひきつけ、体前で指先下方へ向けて合掌動作をおこなう。</p>

# 踊名(奴 踊)踊手(天野麻布美)

指導員



奴踊りは男踊り・女踊り・娘踊りの如く流動的な美でなく、個々の動作がそれぞれ明確で、素朴な男性らしさを表現する振り付けである。膝を曲げて股を擧げる動作や、手の複雑な動作もあって、盆踊りというよりも、舞台舞踊を見るようである。

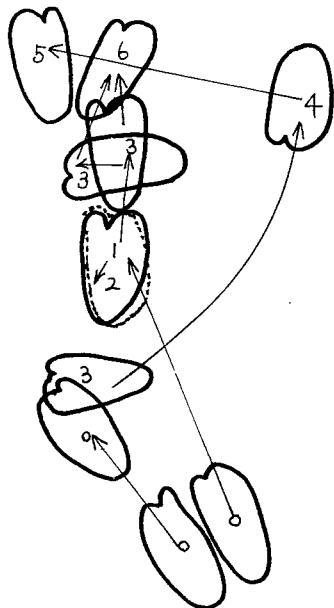
拍子	写 真	次の拍子 への途中	説 明
1			右足1歩円内へ踏み出し体重をかけ、右腕は肘を伸ばし、掌を外にして斜前上拳、左腕は肘を折つて体につけ、掌内側にして胸前とする。
2			体は円内へ向いたまま、左足を右足にひきつける。その時、右手は一度肘を曲げて前方に掌外にして伸ばし、左手は(1)のポーズを一度破して、さらに掌を内にして耳もとへ近づける。

3		  <p>足はそのまま、その場で左回りして外向きとなり、つぎに左足1歩後（円内）へひく。右手掌内にして肘を折ってかざし、左手は腰にあてる。両膝は軽く曲げ両足に体重がかかる。</p>
4		  <p>左足1歩前出（円外）し、体右回りをすると同時に、（円内に向く）右膝を曲げて前拳、その時両手胸で素早く巻き、掌上にして前に伸ばす。つぎに前拳している足を大きく後（円外）へ引き、両膝曲げ、体重両足にかける。左手は掌外にして前方に伸ばし、右手は肘を曲げ掌外にして腰に引きつける。以上の動作を1呼間で行なう。</p>
5		 <p>(4)の動作を繰り返す。</p>
6		 <p>進行方向へ向いて右足を左足に揃え、両腕の肘を伸ばし、右手上、左手下にして掌を合わせる。</p>

# 踊名(笠 踊)踊手(天野麻布美)

## 踊足どり

(指導員山川一尾)



笠踊りは奴姿のまま菅笠をもって踊る。持ち物を生かし、反復動作で表現を強調した踊りで、全体的に単純な力に変化のある構成である。

拍子	写 真	次の拍子 への途中	説 明
1			両膝をやや曲げながら、右足を1歩右斜前（進行方向へ向いて）に出し、体重は左足に残す。その時、笠の内側天井のところを持って右足を出すと同時に、右斜前下に伸ばす。
2			体重を左足にかけたまま、右足はほとんどその位置で力カトを進行方向にずらせながら右手は笠を持つたまま肩の高さに斜上拳、左手は腰につける。

3			<p>右足は前と同様に右斜前へ出すと同時に体重をかけ、右手は笠をもつたまま斜前上に挙げる。左手は手くびを曲げ、掌内側にして適当に指の表情をつける。</p>
4			<p>左足1歩大きく右足の後（円外）へ出すと同時に、体をくるりと左向きをして円内に向きかえ、左膝を少し曲げて体重をかけ、右手は肘を伸ばして笠を上挙、左手は腰にとる。</p>
5			<p>右足円外へ1歩ひくと同時に、体をもとの進行方向へ向け、（足は進行方向へ向いて左右に開いている）左手は掌下、右手は笠をもって両手左右に開く。</p>
6			<p>左足を右足に揃え、左手腰、右手の笠を左腰に、笠の表を外にしてつける。</p>